

平成31年度 調布市立調布中学校 学校経営計画

学校教育目標

・自ら学び深く考えよう ・身体を鍛えたくましく生きよう ・礼儀正しく思いやりの心をもとう ・勤労を重んじ進んで奉仕しよう

目指す学校像(ビジョン)

「生徒のびのび、保護者安心、地域自慢、教職員いきいき」

「生徒のびのび」とは ・生徒に任せ、活動の成果を待つ。 ・自ら考え、判断、行動する。 ・自ら鍛え、生きる力を身に付ける。 ・個性を尊重し伸ばす。
 「保護者安心」とは ・学校、家庭との連絡を密にする。 ・学校の教育活動についての情報を発信する。 ・いじめ防止を徹底する。
 「地域自慢」とは ・地域の方々に、教育活動についての情報を発信する。 ・学校行事等を通じて、地域の方を学校に招き入れる。

「教職員いきいき」とは ・生徒一人一人を温かく見つめ、生徒の成長を見守る。 ・教職員どうしがお互いに切磋琢磨する。 ・教職員が意欲的に教育活動に取り組むことができる教育条件や教育環境の整備に努める。

本校の現状と課題

現状：生徒は、落ち着いた学校生活を送っており、授業ではしっかりと学習している。行事や部活動にも積極的に取り組んでいる。教職員は、真面目に一生懸命仕事に取り組む。同じ方向を向いて課題に取り組んでいる。
 課題：生徒の主体性を育てること。特別に支援を要する生徒への組織的な体制を構築すること。不登校生徒数を減らすこと。

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標 ※ 数値目標が可能な項目について設定する
学力向上	確かな学力定着に向けた教育の推進 調布市教育委員会研究推進校2年目となり、主体的・意欲的に学習する生徒の育成を目指す。	授業改善を重ね、より高い授業を創造する。	・1学期に生徒による授業評価をさせ、2学期以降の授業改善を行わせ、その結果について2回目の授業評価を実施する。 ・保護者対象に生活アンケートを1学期と2学期に実施する。 ・教員相互のOJTを推進し、授業力の向上を図る。 ・ <u>学び合い活動を各教科の授業に取り入れるとともに、思考ツールの活用、振り返りの充実を図る。</u>	・生徒による授業評価を年2回実施し、全ての項目で肯定的評価を8割以上にする。 ・保護者の生活アンケートで全ての項目で肯定的評価を7割以上にする。 ・全ての教員が、思考ツールを活用し、振り返りを充実させた指導案を作成する。
		生徒の表現力を育成する。	・各種検定の実施を図る。また言語活動、特に表現力を育成するために、1年生は「社会を明るくする運動」の作文、2年生は「人権作文」、3年生は「税の作文」を夏季休業中の必修課題とする。 ・各教科及び部活動等で、生徒の力を発揮できるコンクール等に挑戦させる。 ・朝のミニディスカッション活動を行い、気軽に発言できる機会を作る。 ・研究に関する生徒の意識調査を5月、7月、11月、2月に実施する。	・英語検定・漢字検定ともに年2回以上実施する。 ・夏休みの課題は生徒全員が提出する。 ・多くの機械を逃さず計画的に挑戦させる。 ・生徒の意識調査が月を追うごとに向上させていき、最終的には全ての項目で肯定的評価を8割以上にする。
健全育成	人権尊重の精神や社会的規範意識の育成 様々な人権問題への理解を深め、人権尊重の精神を根付かせるとともに学校行事を通しての成就感や職場体験・ボランティア活動を通しての勤労観や貢献心などを養い、社会人としての規範意識を育てる。	互いの個性を尊重し、人としての尊厳を守り抜く人権尊重の精神を育てていく	・研究推進校組織に道徳部を設置し、「主体的に考え・議論する道徳」の授業を実践していく。 ・生徒会「思いやりキャンペーン」の全校的な推進を図る。いじめ問題の解消に努めながら、他の人権問題や環境問題に思いやりの対象を広げ、その解決に向けて全校的な取り組みを行っていく。 ・各学校行事において、お互いに認め合い高め合える人間関係を築く。	・道徳の授業についての校内研修を行う。 ・人権尊重教育講演会を実施する。 ・6月に「思いやりキャンペーン」の見直しを行い、実施する。 ・体育祭、音楽祭等で特別支援学級と交流する。
		集団のきまりや規律を重んじ、自立した社会人として成長するための知識・資質を身に付けさせる。	・各専門委員会活動を通して、学校生活のきまりを遵守させる。また授業規律を徹底させる。 ・職場体験(5日間を基本)を通して社会人としての望ましい勤労観を養う。またボランティア活動や総合的な学習を通して社会へ貢献する態度を育てていく。	・毎月実施される専門委員会で、課題の把握、解決方法を検討し、生徒会朝礼で発表する。 ・1年生の3学期に職業についての調べ学習を行い、2年生の6月に職場体験を実施する。
健康・体力づくり	心身の健康を保持続けていく態度の育成 自らの心身の成長に関心をもたせ、食について自己管理できる能力や体力増強に切磋琢磨する態度を育てる	進んで体力や気力を高めようとする態度や能力の育成	・調布市立中学校における運動部活動の方針に従って活動させる。 ・文化部の活動についても、運動部活動の方針に従う。 ・体育科の授業で一人一人の運動量を増やしたり、夏季水泳教室を実施し、体力向上を図る。 ・オリンピック・パラリンピック教育の推進を図り、心身共に鍛える。	・無理のない活動をさせ、事故を減らす。 ・運動部活動では、9ブロック大会へ参加し、都大会へ挑戦する。また文化部でも、コンクール等上位大会を目指す。さらに文化部では、地域の発表会へ積極的に参加し、地域に貢献させる。 ・体育科の授業でTTを実施する。 ・講演会を実施する。
		自らの心身の成長を促す食育の推進	・総合的な学習の時間の3時間を食育の時間に充てて、食物アレルギーへの理解や進んで健康保持に努めようとする態度を育てていく。 ・食育講演会を開催し、栄養の大切さや生活習慣病の恐ろしさなどを理解させる。	・総合的な学習の時間で年間5時間程度食育の授業を実施する。 ・食育講演会を各学年1回実施する。PTA、栄養士と連携した講演会を1回実施する。
保護者・地域との連携	保護者・地域に信頼される学校 教育活動の成果や学校の現状や課題などを地域に公開し、地域に信頼される学校を目指す	学校評価の公表に向けた校内体制の確立	・生徒や保護者の授業評価のまとめを公表する。校内での自己評価、関係者評価をどのように公表していくか研究検討を重ねる。	・ホームページと学校・学年・学級だよりを活用し地域・保護者に公表していく。
		小・中連携及び地域活動への参加協力	・小学校との連携を深める。特に食物アレルギーへの情報共有と共通理解を図る。 ・中学校区の5つの健全育成会には、担当教員を決め、会議や行事に参加させる。 ・災害対策について生徒会を中心に全校で取り組む。	・小学生の中学校体験を実施する。また石原小学校とは連携して研究を進める。 ・小中教育懇談会、出前授業、部活動見学・日本文化体験交流の実施、健全育成会の出席(毎月5団体)、地域運動会・まつりの参加、地域防災訓練、防災教育の日の内容検討(2学期)など地域との関わりを持つ。
特色ある教育活動	一人一人を大切に作る学校 教職員や生徒・保護者が人権問題の理解を深め、一人一人の個性が発揮でき、自信と誇りに満ちた生活を過ごすことができる学校 国際理解教育を推進する 2020東京オリンピックを見据え、外国人に対しても、しっかりと対応できる生徒を育成する	一人一人がもつ個性や能力を伸ばし高めていく教育の推進 全ての生徒が安心して学習できる教育環境の推進	・学校内外において、興味・関心に基づき生徒が自分の能力を高めようとする活動を支援する。 ・ガイダンス機能(面談)を充実させ、生徒、保護者のニーズに迅速に応える。 ・特別支援教育コーディネーターを中心とする特別支援教育校内委員会を <u>毎週開催し、「地域学校協働本部」</u> を活用し、組織的に適切な支援が実施できるよう推進する。また、校内研修会の充実を図る。 ・不登校生徒の対応には、スクールカウンセラー及びスクールサポーター、外部関係機関と連携し組織体制で迅速に応える。	・各種関係者機関のコンクール等へ参加させる。 ・学期、夏季休業中に面談日を設定する。 ・スクールカウンセラー・スクールサポーターを活用し、支援体制を確立する。
		いじめのない学校づくり 国際感覚を身に付けさせる	・いじめのアンケートを活用し、いじめの早期発見に努める。 ・いじめをしないさせない教育の推進を図るため、道徳・総合的な学習の時間・特別活動を活用充実させる。 ・健全育成の指導の中に、「いじめ防止」を年間計画に位置づける。 ・生徒会事業「思いやりキャンペーン」を強化・進化させ、思いやりの心を育てる。 ・モンゴルの学校と友好関係を結び、交流を深める。	・毎月いじめの簡易アンケートを実施する。また6月・11月・2月のアンケートでは従来通り詳しく聞く。 ・毎月のいじめの認知件数を5件以内にする。 ・「思いやりキャンペーン」週間を各学期設定し、思いやりの心の育成する。 ・生徒作品の交流やモンゴルの学生の体験入学を実施する。またモンゴル大使館とも繋がり、更に交流を深める。